

豊かな田園空間を創造する

安曇川沿岸土地改良区概要



水土里ネット安曇川沿岸

安曇川沿岸土地改良区
〒520-1202 滋賀県高島郡安曇川町下古賀1543-1
TEL: (0740) 33-0009 (代表) FAX: (0740) 33-0093

新旭町井ノ口地区上空から
一級河川安曇川を撮影

安曇川沿岸土地改良区の概要

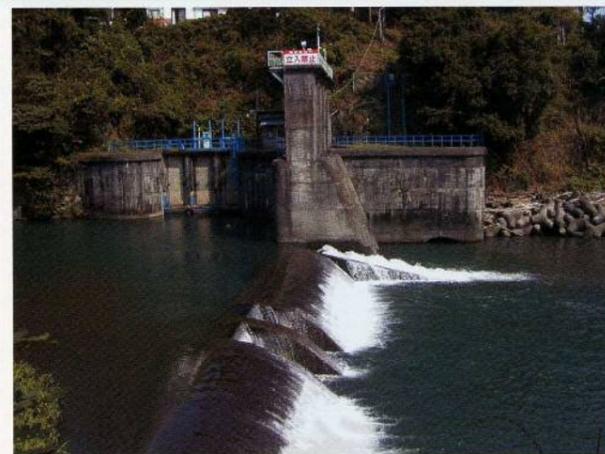
当改良区は、安曇川の両岸にある安曇川町と新旭町の西側半分に受益地があり、その両岸に展開する扇状地は肥沃な土地に恵まれており、古くから稲作が営まれ湖西地方最大の穀倉地帯として農業が発展してきました。この地帯の水の供給源は、そのほとんどが安曇川に依存し安曇川合同井堰により取水した表流水のほか伏流水として地下に浸透し豊富な水が湧水として湧き、農業用水のほか生活用水や地域の環境用水として、様々利用されています。

水利施設

県営右岸・左岸幹線用水路

安曇川の上流にある安曇川合同井堰から取水し、右岸幹線用水路（安曇川町方面）、左岸幹線用水路（新旭町方面）に分水し配水を行っています。

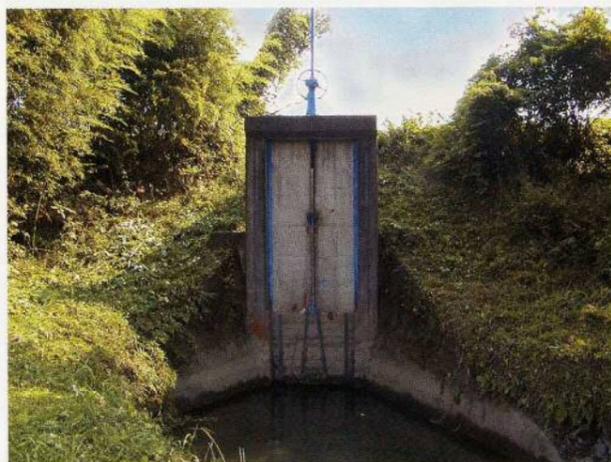
それ以外に安曇川の旧井堰からも取水を行っており右岸側には三重生があり、左岸側には饗庭井があります。



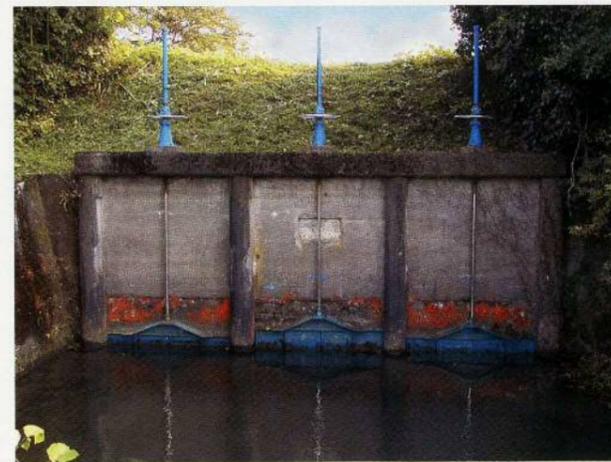
▲安曇川合同井堰

田中井幹線用水路

安曇川の右岸にある三重生井取水門から取水し田中井取水門で水量調整を行い田中井幹線用水路によって、安曇川町内に配水されています。



▲三重生井取水門



▲田中井取水門

奥山ダム

奥山ダムは、昭和41年度から昭和46年度に水源施設として地域の最上流に属する一の瀬谷川に築造されました。ここは、近くに自衛隊の演習場があるためダムサイトの決定については、演習に支障がない位置を選定し関係庁協議の上、決定いたしました。地域農地への導水は新設の取水路により既設の安曇川左岸幹線用水路の上流部に放流し下流へ送水しています。

ダムの取水操作は演習場外の3.5km離れた管理施設から遠方操作により行っています。



▲奥山ダム

ダム管理室



雨雪量計・ITVカメラ



光端局装置・被遠隔監視制御装置



取水ゲート機側操作盤



発動発電機

ダム管理事務所



監視操作卓・CRT処理装置



データ分析装置

光端局装置・遠隔監視制御装置

饗庭井用水路

安曇川の左岸を流れている饗庭井用水路は、安曇川からの取水と的谷川と入谷川からの山水、それに下古賀地区の寺谷川排水とが合流し、入谷川取水ゲートと饗庭井取水門で水量調整を行い新旭町内に配水を行っています。

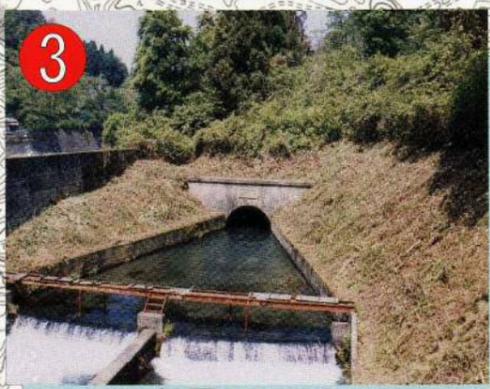


▲饗庭井取水門

安曇川沿岸土地改良区受益地図



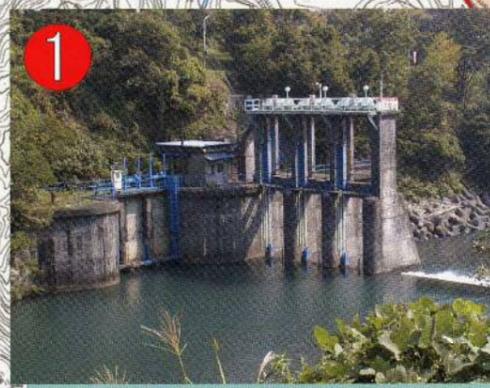
奥山ダム



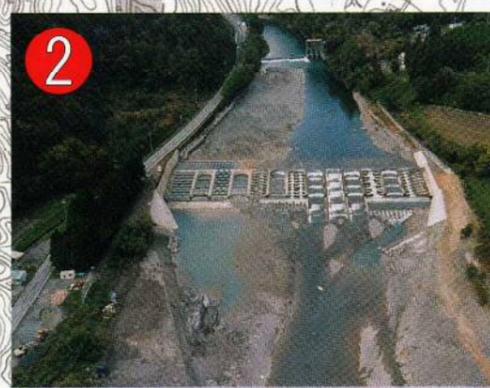
安曇川分水工



3号分水工



安曇川合同井堰



床止工



円形分水工

凡 例	
	右岸左岸幹線用水路・受益地
	田中井幹線用水路・受益地
	饗庭井用水路・受益地



自然と人との調和空間をめざして！！

1. 構想

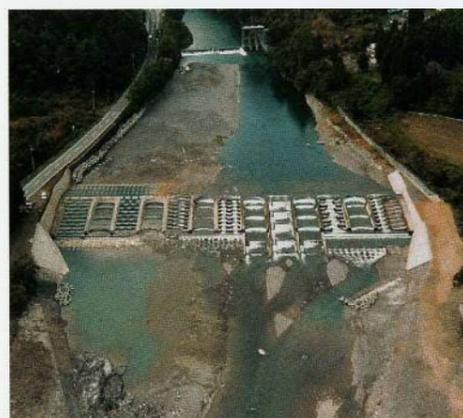
近年、生活環境の変化により自然とふれあえる場所が少なくなっているため、これからの農業施設は生産性を維持しながら環境と調和をもち、自然にやさしくだれもが水に親しめるような空間に整備し、安全に水辺で遊べるように配慮した憩いの場を造っていく必要があると考えています。



2. 関連事業

平成6年より実施された農地防災事業（安曇川地区農業用河川工作物応急対策事業）で一級河川安曇川の河床低下から農業用施設を（安曇川合同井堰とその下流の横断用水樋管）を保護するため、床止工を新設しました。

なお、この床止工には自然との共生を目指し、周辺水域に生息する多種多様な水生生物が自由に移動できるように全面魚道を併設しています。



安曇川床止工



全面魚道



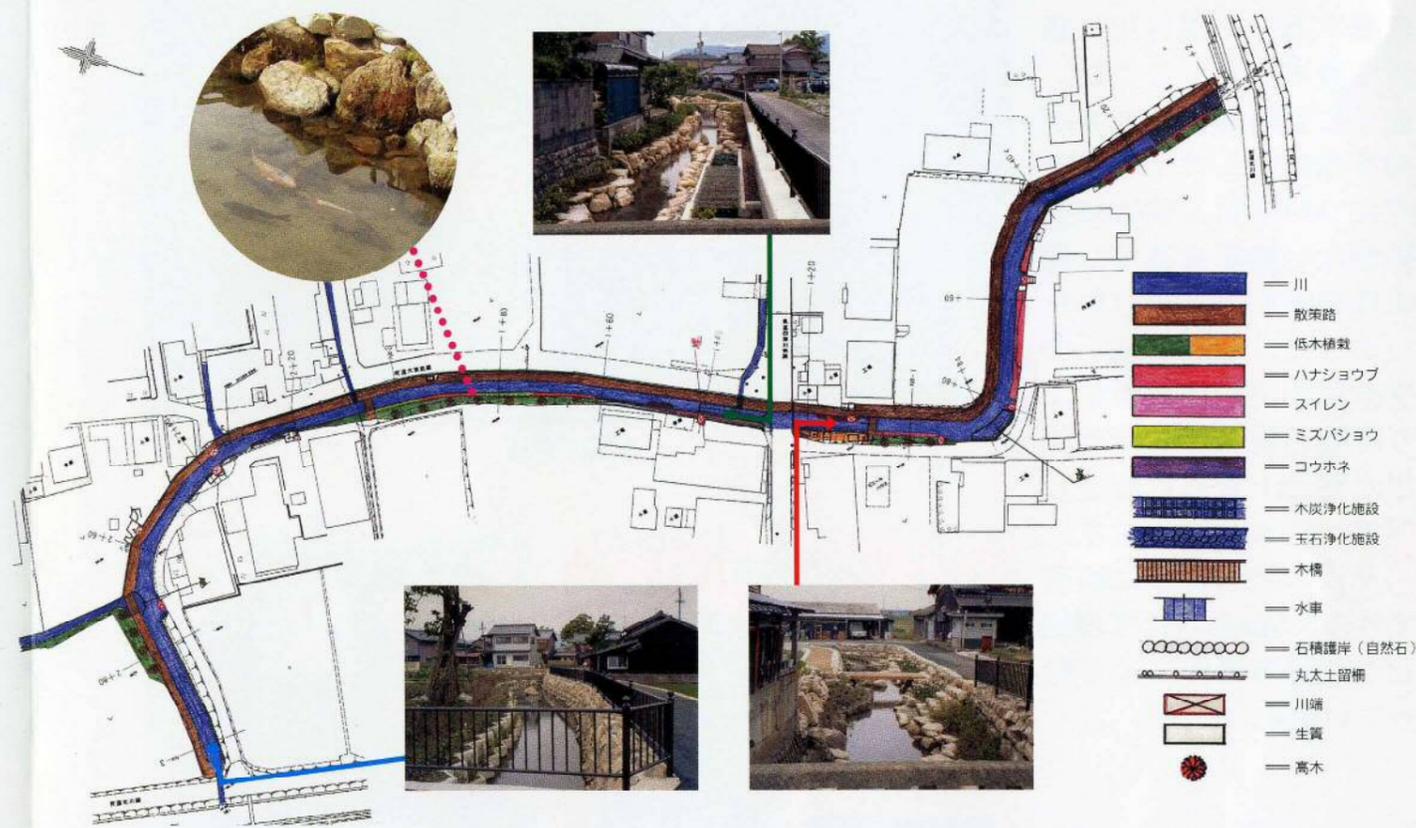
アユの遡上

以前より安曇川の水辺には多くの家族連れや釣り人が訪れアウトドアを楽しんでおられますが、床止工を新設したことにより景観が良くなり子供達にも親しみやすい環境が出来たと思われています。

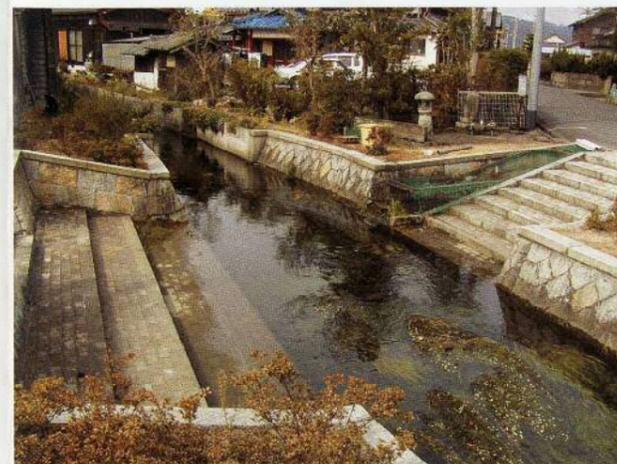
しかし、この床止工がそこに住んでいる生き物に対し障害にならないように十分検討し生き物にとって住みやすい川になるように魚道が造られました。

その後の調査によってピワマス・アユからヨシノボリに至るまで遡上条件が良好であることが確認されています。

平成6年度 水質保全等施設整備事業で施工された安曇川町下小川地先（事業主体：安曇川町）



平成3年度～平成10年度 饗庭野演習場関連公共施設整備事業で施工された新旭町針江地先（事業主体：新旭町）



梅花藻

（撮影者：青木 繁 氏）

工事完了後、地域住民の手によって梅花藻が植えられました。梅花藻とは、キンポゲ科の沈水植物で夏には梅の花に似た白い花を咲かせます。この藻は、水の汚染、水の減少、水温の上昇（適温15度前後）には非常に弱く、水質のバロメーターになっています。